



# 新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 学

あけましておめでとうございます。  
「THE CHEMICAL TIMES」をご愛読の皆様におかれましては、つつがなく良い新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年10月に衆議院議員総選挙が行われ、自公合わせて定数の三分の二を超える議席を獲得しました。メディアの「森友、加計問題」の追求はありましたが、野党分裂により無党派層の票が分散し、北朝鮮等の外交政策や安全保障の面でも変化を避けたいという国民の意識が働いた結果ではないかと思われまます。また、日経平均株価は16日連続の連騰で記録を更新し、世の中の景気はまだ模様ではありますが確実に動いていると感じております。これからの東京オリンピックやIoT、AIなどの成長産業がさらに景気の後押しとなってくれることを期待しております。

さて、科学業界は目覚ましく発展しておりますが、2017年版の科学技術白書によれば、研究価値が高いとされる被引用件数の多い論文に関して日本は10位まで下がりました。2002年～2004年には米英独に次ぐ4位だった事からすれば、これは憂慮すべき事態に思えます。天然資源の少ないわが国の成長の源泉がどこにあるかを考えれば、未来に目を向けた研究への投資すなわちアカデミアや若手研究者への支援など産官学連携の活性化をもっと拡大すべきと思います。当社においては、昨年5月に山梨大学の生命環境学部に「甲府インキュベーションセンター」を開設しました。本格的なクリーンルームを備えたサテライトラボであり、ここでは当社の研究スタッフが常駐して再生医療への応用が期待されているヒトiPS細胞を用いたオリジナルの細胞培養培地の研究開発を開始しました。大学の知的財産の実用化を通じ、企業からさまざまな支援も提供出来ればと思います。

ところで、今年の干支は“戊戌”(つちのえいぬ)であります。「戌」は「茂」に通じ、植物の成長が絶頂期にあるという意味です。また、「戌」は「滅」(めつ、ほろぶ)の意味で、草木が枯れる状態を表しているとされています。“一方が枯れて、一方が生い茂る”ということから、2018年は大いなる変化の年ということになります。当社の大きな変化として、昨年12月よりリニューアルした弊社ホームページに、電子版試薬総合カタログをアップすることに致します。最近カタログでの試薬調査をパソコンで行っているお客様が多くなりましたので、従来の紙媒体の発行を取りやめ、利便性を優先しパソコンやタブレット端末、スマートフォン等で利用出来る形態に致します。これにより掲載する情報量は飛躍的に増加し、日本語、英語OKのクイックレスポンス検索が可能になり、合わせて弊社の製品検索ツールのCica-webを通じて製品規格、試験成績書、在庫量、SDS、法規制の情報も入手可能になります。今後もさらに使い易さを向上させて参りますので、忌憚ないご意見を頂ければ幸いです。

最後に、本誌は1950年の創刊以来、今号で247号となりました。読者の皆様に“最新的话题”を“より興味のある内容”で“より判り易く”提供するよう引き続き取り組んで参りますので、皆様のご指導、ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

この一年が皆様にとって光輝に満ちた幸多い年でありますように祈念しております。

